

# JR 長門湯本駅のあり方に関する検討会

## 報 告 書

(案)



平成 30 年 6 月



## 1. 検討会設置の趣旨

本検討会は、湯本まちづくり協議会（会長：荒川武美）から平成 29 年 11 月 24 日付で要望された「JR 長門湯本駅の移設について」を受け、移設における技術的な要因や費用対効果の検証等、実現の可能性を調査研究することを目的に、地元住民代表、地元経済団体、JR 西日本広島支社、外部有識者、関係行政機関等をメンバーとした「JR 長門湯本駅のあり方に関する検討会」として組織された。

## 2. これまでの経緯

JR 長門湯本駅の移設要望については過去にも同様に検討が行われた経緯があり、以下のとおりこれまでの経緯をまとめる。

| 時 期             | 内 容  |
|-----------------|--|
| 平成 10 年頃        | ➤ 長門市において湯本温泉旅館協同組合が運営するマンション「湯本レジデンス」に隣接した音信川沿いの一角に駅のホームを新設し、河川公園と連結する構想があったが、地元（門前自治会）の反対意見が多く同意がとれないとして計画を断念する。               |
| 平成 23 年         | ➤ 平成 22 年 7 月に発生した豪雨災害を受けて、地元より長門湯本駅の移転改修の動き（移転要望）が見られたが、具体的実施までに至らなかった。   |
| 平成 28 年<br>8 月  | ➤ 星野リゾートの進出を契機として、長門湯本温泉の再生を目指した長門湯本温泉観光まちづくり計画（以下、「観光まちづくり計画」という。）を策定し、魅力的な温泉街を実現するため「駅の位置等の検討」が行われる。                           |
| 平成 28 年<br>9 月  | ➤ JR 西日本広島支社に対する要望活動を実施。「駅舎の移転については、諸設備の新設やシステム改修等に多額の費用に係る他、長門湯本温泉にお越しになる方のうち、鉄道をご利用される方は極めて低いとして、現状では効果が極めて低く実現は難しい。」との回答を受ける。 |
| 平成 28 年<br>10 月 | ➤ 大西市長による JR 西日本広島支社に対する要望活動を実施。   |
| 平成 29 年<br>9 月  | ➤ JR 西日本広島支社に対する要望活動を実施。「H28 年度に回答しているとおり実現は難しい。」との回答を受ける。   |
| 平成 29 年<br>11 月 | ➤ 湯本まちづくり協議会から長門市及び JR 西日本広島支社に対して要望書が提出される。   |
| 平成 30 年<br>3 月  | ➤ JR 長門湯本駅のあり方に関する検討会を組織する   |

### 3. 検討会の開催状況

本検討会は平成30年3月8日に発足し、地元要望の整理や課題の洗出し、論点の整理、実現性の可能性、今後の方向性等について、毎月1回のペースで合計4回にわたる検討を行なった。

【第1回】平成30年3月8日（木）15時30分～

会場：長門市中央公民館会議室

【第2回】平成30年4月17日（火）10時30分～

会場：長門市物産観光センター会議室

【第3回】平成30年5月22日（火）10時～

会場：長門市物産観光センター会議室

【第4回】平成30年6月18日（月）10時～

会場：長門市役所3階会議室

### 4. 課題の洗出しと整理

本検討会（全4回）において、各関係機関より出された意見や課題について以下に整理する。

| 関係機関 | 意見集約と課題整理   |
|------|---|
| 地元   | ◆ 湯本を訪れる観光客の周遊性・回遊性を高め、JR観光利用者の利便性向上を図る。  |
|      | ◆ 地元としては駅をほとんど利用していない現状。<br>◆ 地元としての利用は少ないが、訪れる観光客の利便性を確保するためには街並み整備が必要。  |
|      | ◆ 駅移設のタイミングは、長門市が進める長門湯本温泉観光まちづくりと並行する今のタイミングをおいてない。<br>◆ 住民意識も醸成され、駅移設については賛成の意見で地元としても固まってきている。   |
|      | ◆ 現長門湯本駅は、門前区が集会所として活用しており、駅舎の維持管理も長門市から委託を受けている。<br>◆ 高齢化に伴い駅舎を管理することが困難。<br>◆ 管理の手間を省きつつ、集会所としての機能は持たせたい。<br>◆ 集会所については必ずしも駅でなくても良い。旅館組合の会議室で集まっても良いのではとの意見もある。 |
|      | ◆ 現長門湯本駅から湯本地区までの街並みについて、街灯も少なく暗い。  |

|                         |   |
|-------------------------|---|
|                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 移設するのが困難で今の駅で考えるとなると、長門湯本温泉の入口としてイメージ向上を図ることが必要。</li> <li>◆ トイレだけはきれいにしてほしい。夏場になると悪臭がする。</li> <li>◆ 地元として費用負担を行なうことは困難。出来たとしても寄付を募る程度となる。</li> </ul>   |
| 経済団体／湯本温泉旅館協同組合、長門商工会議所 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 送迎を行なう旅館と送迎したくても出来ない旅館がある。駅が移設されれば各旅館における送迎負担の軽減が図られる</li> <li>◆ 湯本駅の利用客には、駅に降りて記念撮影をされるお客様もいる。</li> <li>◆ 歩いて旅館まで来られる方もいるので、導線の魅力向上は必要。</li> <li>◆ 観光まちづくりの整備計画と同時期に整備することが経済効果の観点からも望ましい。</li> <li>◆ JR 美祢線を利用しない最大の要因は、湯本に到着してからの足がないこと。</li> <li>◆ 音信川河川公園に駅があること自体が観光資源になり得る。</li> </ul>  |
| J R 西日本広島支社             | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 技術的要因から考慮して駅移設候補地は、音信川河川公園付近となる。</li> <li>◆ J R 西日本管内における類似の駅移設に係った費用では、約 2 億円程度の費用が発生すると試算。</li> <li>◆ 技術的な課題（勾配やカーブ、工事における地理的条件等）が多くあることから、工事に係る更なる費用負担の増加を見込んでおく必要がある。</li> <li>◆ 駅移設の実現の可能性については否定しないが、現状の利用状況において JR が費用負担を行なうことはない。</li> <li>◆ 駅移設の検討条件としては、広島で新設した例を見ると、1 日当たりの乗車目標が 1,700 人。そのくらいの規模は必要である。</li> <li>◆ 移設候補地と現在の駅との勾配状況を比較すると現在の場所より危険な場所に移設することとなる。</li> <li>◆ 無人駅を利活用することは可能。駅舎をテナントして貸付けることも出来る。</li> <li>◆ 乗客の安全や利便性が確保できれば植栽や駅舎改修の提案には応じることも出来る。</li> <li>◆ コミュニティ機能を有した施設としての活用を検討出来ないのか。（於福駅・厚保駅等）</li> </ul> |

|           |   |
|-----------|---|
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 利用促進については JR としても協力できることは多くある。例えば臨時列車を走らせることも可能である。</li> </ul>   |
| 山口県       | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 河川構造令において護岸からの必要幅は 4 m 必要（技術的助言）</li> </ul>  |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ せせらぎ橋は人通用通路であるので、重機が通るような耐荷重でない。工事用通路を確保する必要がある。（技術的助言）</li> </ul>   |
| 長門市       | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 地元の理解を確実にとることが必要。</li> <li>◆ 地元が本当に望んでいるものは何か。</li> </ul>  |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 駅を移設した場合における現在の湯本駅の対応についての検討が必要</li> </ul>   |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 費用対効果を検証することが必要。</li> <li>◆ 駅移設によって、地域や利用者にとってどのような課題が解決され、どのような効果がもたらされるのか。</li> <li>◆ 費用対効果の視点として、公共交通機関による湯本温泉来訪者が増加することはもちろんであるが、湯本地区全体の利便性向上が図られ、交流人口の増加に伴う湯本地区への経済効果も費用対効果の視点となる。</li> </ul> |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ JR の利用促進について、ハードとソフトの両面から利用促進を進めていくことが重要。</li> </ul>   |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 地元も JR 西日本も費用を負担することは困難ということで、市としても有効な補助制度の活用を検討しているが、駅舎移設に係る有効な補助制度はない状況。</li> </ul>  |
| 外部有識者／その他 | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 駅を仮に移設したとしても何かワクワクするようなものを感じられない。このことが、地元へのモチベーションにつながっていないのではないかと。</li> </ul>   |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ まちづく計画全体の中で長門湯本駅をどういった位置付けにして効果を考えるかが重要。</li> <li>◆ 長門湯本温泉観光まちづくりデザイン会議に専門家がいるので課題提起して助言をもらってはどうか。</li> </ul>  |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 行政だけにまかせるのではなく、関係機関がそれぞれ負担とリスクを負いながら進めていくことが重要。</li> </ul>   |
|           | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 現在の駅舎は将来的に文化財にもなり得るポテンシャルをもった施設である。</li> </ul>   |

## 5. 地元要望に対する検討結果について

| 要望事項  | 検討結果と今後対応   |
|---|---|
| (Ⅰ) JR 長門湯本駅の移設について                                     | <p><b>【現状では駅を移設することは困難】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 駅移設の候補地については、技術的要因から音信川河川公園付近を適地として検討を進めてきた。</li> <li>➤ 技術的要因において、勾配・曲線・工事ヤード等の課題はあるが、移設すること自体は可能。</li> <li>➤ 駅を移設することで、観光客における利便性の確保や湯本温泉で営業される旅館における送迎負担の軽減等の利便性向上が図れる一方で、現在の駅と同レベルの駅を移設するだけでも 200,000 千円程度の費用が必要となり、また、技術的要因の課題に対する移設工事費用が更に加算される等多額の費用負担が必要となる。</li> <li>➤ 現状の長門湯本駅の利用者は、20 人／日（H29 年度）で、200,000 千円以上の費用を投資して駅を移設しても、投資効果に見合う飛躍的な駅利用者の増加や利便性の向上は見込めないことから、駅を移設することは困難とする。</li> </ul> |
| (Ⅱ) 現状の駅舎における環境の整備（トイレ改修）                               | <p><b>【駅舎の魅力化と合わせて継続協議】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 湯本地区における公共交通の拠点としての機能だけでなく、地域のコミュニティ拠点としての活用も視野に入れ、長門湯本駅の魅力化と合わせて活用方策を観光まちづくり計画の議論の中で深めていく。</li> </ul>   |
| (Ⅲ) 門前地区⇄湯本地区における街並み環境の整備<br>(Ⅳ) 湯本地区における観光客の周遊性や回遊性の向上 | <p><b>【継続協議】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 観光客や地元住民にとって周遊性を高めるための方策を観光まちづくり計画の議論の中で深めていく。</li> </ul>   |

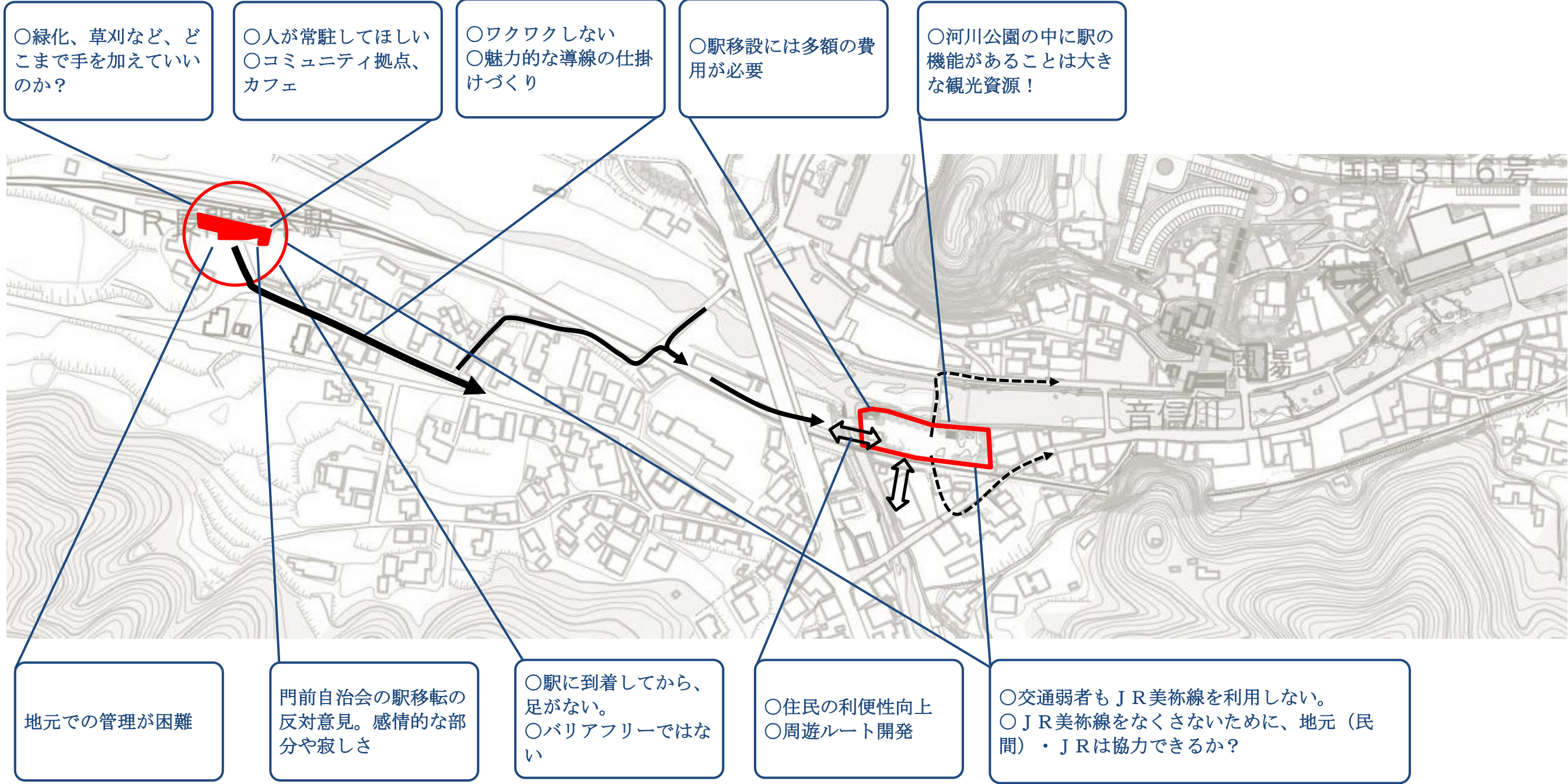
## 6. 今後の方向性と関係機関の役割りについて

### 公民連携による協働型の湯本温泉観光まちづくりの推進

| 【行政】   | 【ＪＲ西日本広島支社】   | 【地元】  |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 観光まちづくり計画の実現のため、地元住民の方と一緒に議論を深めていく。</li> <li>■ 民間活力の導入を含めた駅舎の魅力化を検討する。</li> <li>■ 長門湯本温泉観光まちづくりデザイン会議に対して課題を提起し、必要な助言やアイデアをいただきながら活用方策を検討する。</li> <li>■ JR 美祢線利用促進協議会の事業において、地元との連携を強化し利用促進に努める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 駅活用の方策について、必要な助言や情報提供を行なう。</li> <li>■ JR 美祢線利用促進協議会において、関係機関との連携を深め、利用促進に努める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現状の駅舎において地元としてどう活用したいのか等の方策を再度検討し、観光まちづくり計画の実現のため、行政と一緒に議論を深めていく。</li> <li>■ 門前区・湯本区・三ノ瀬区が一体となって、観光まちづくり計画の推進に協力する。</li> </ul> |



7. 湯本温泉活性化に向けた意見・アイデア ①



## 8. JR 長門湯本駅のあり方に関する検討会委員名簿

| N0 | 区 分     | 氏 名   | 所属役職                     |
|----|---------|-------|--------------------------|
| 1  | 地元代表    | 岡田 貢  | 湯本まちづくり協議会 副会長           |
| 2  | 地元代表    | 藤田 正和 | 湯本まちづくり協議会 副会長           |
| 3  | 地元代表    | 伊藤 孝身 | 湯本まちづくり協議会 副会長           |
| 4  | 地元代表    | 吉津 棟男 | 湯本まちづくり協議会 副会長           |
| 5  | 地元代表    | 赤川 孝昭 | 門前区 副自治会長                |
| 6  | 地元代表    | 伊藤 就一 | 湯本まちづくり協議会 みらい検討部会長      |
| 7  | 経済団体    | 湯野 武男 | 長門商工会議所 専務理事             |
| 8  | J R     | 中崎 浩二 | 西日本旅客鉄道(株)広島支社 企画課課長代理   |
| 9  | J R     | 藤井 浩子 | 西日本旅客鉄道(株)広島支社 企画課（経営企画） |
| 10 | J R     | 保見 孝好 | 西日本旅客鉄道(株)広島支社 長門鉄道部部長   |
| 11 | 有識者     | 川原 晋  | 首都大学東京 都市環境学部教授          |
| 12 | 行政機関（県） | 岩田 一郎 | 長門土木建築事務所維持管理課課長         |
| 13 | 行政機関（市） | 寺岡 秀勝 | 長門市経済観光部商工水産課課長          |
| 14 | 行政機関（市） | 石本 徹  | 長門市経済観光部成長戦略推進課課長        |
| 15 | 事務局     | 吉村 博克 | 長門市経済観光部商工水産課商工振興室長      |